

光星 2年ぶり決勝進出



【能代松陽 八学光星】7回裏、八学光星無死満塁、米澤が遊撃強襲の2点適時内野安打を放ち、5-4と逆転するヤマリョースタジアム山形

第72回春季東北高校野球

第3日

第72回春季東北地区高校野球大会は第3日の13日、山形県中町のヤマリョースタジアム山形(山形県野球場)で準決勝2試合を行った。本県第2代表の八戸学院光星が15安打を放ち、能代松陽(秋田第1代表)を12-6で下し、2年ぶりの決勝進出を決めた。決勝は14日午前10時から、同球場で仙台育英(宮城第1代表)と戦う。(佐藤正悟、榎方好華)

7回7点 打者一巡の猛攻

▽準決勝(ヤマリョースタジアム山形)

【評】1点を追った八学、時内野安打で逆転に成功。功、田中楓の適時打や平良の適時二塁打などで、投手陣は計9安打を許し、敵方で無死満塁とし、8回に5点を奪った。八回に5点を奪った。八回に5点を奪った。

佐藤 平良の継投で逃げ切った。2試合連続無失策と堅守も光った。1年押田小3安打 ○:八学光星の1年生で8番を打つ押田小が3回に安打。大量得点の七回にけさ、ちりと送りバントを決め、勝利に貢献した。一打で気持ちがいい。試合前に先輩たちから「俺らが打つから気楽に行け」と言われたので、気楽に打てましたと白い歯をのぞかせた。東京都出身。押田小3年)とともに兄弟で八学光星のレギュラーを張る。173センチ、60キロ細身ながら、11日の準々決勝では三塁打と二塁打を放ち、長打力もある。ここまで来た方には勝つたい。自分は守備で使ってもらっている。守備で貢献したい」と決勝での活躍を誓った。

米澤逆転打 打線に勢い



7回裏、八学光星無死満塁、米澤の適時打で二塁走者・田中楓(背番号9)も生還し5-4と逆転

八学光星打線の勢いが止まらな。11日の準々決勝に続く2桁安打の15安打12得点で熱戦を逆転で制し、2年ぶりの頂点へ手をかけた。仲井監督は「県大会から終盤にかけて逆転する試合が多かった。選手たちが気持ちを切り替えて戦え、結果で無死満塁、好機で打

無死満塁「ここに打ったらヒーロー」

席が回ってきたのは、仲井監督が勝負強さに太鼓判を押す米澤だった。「ここに打ったらヒーローや」。自分に言い聞かせながら打席に立ち、内角の直球を強振。鋭い打球はダインクキョウを試みた遊撃手のグラブを大きくはじいた。相手守備がもたつく間に、相手が生還。ハイタッチして逆転を喜び合う。向かって、何度も何度もガツポーズした。波に乗った打線はこの回、打者一巡の猛攻で計7点を奪った。

新チームが充足して以降「県大会も含めて優勝経験がない」と米澤。決勝は前回出場した2年前と同様、仙台育英と対戦する。「自分たちはチャレンジャー。一人一人が後ろにつなぐ意識を持ち、全員で集中して戦いたい」。悲願の初タイトルまで、あと一勝だ。(榎方好華)

県勢きょうの試合 (左のチームが一塁側)
◇決勝
▷ヤマリョースタジアム山形
仙台育英一八学光星(10・0)